

# 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会通信

Vol. 7

平成 30 年 2 月 9 日

発行／編集 武蔵野市健康福祉部地域支援課

## 多職種連携推進・研修部会

「摂食嚥下機能障害への支援」をテーマとした研修会・グループワークを開催しました。

今年度は部会のテーマを「摂食嚥下機能障害への支援」とし、多職種連携の裾野を広げることとしました。

### 【背景と目的】

- ★高齢者の在宅療養生活を継続するためには、高齢者がいつまでも安全に食べられることを支援する必要がある。
- ★「食」を支援することを多職種で考え、意見や情報交換を行うことにより、「摂食嚥下機能障害」について正しく理解するとともに、多職種の信頼関係の構築につなげる。
- ★摂食嚥下機能障害を取り上げることによって、歯科、歯科衛生士、OT、PT、ST、管理栄養士、介護施設等との連携を推進し、多職種連携の裾野を広げる。



### 【開催概要】

日時・場所	テーマ・講師	参加者数
平成 29 年 7 月 28 日(金) 18:30~20:00 武蔵野市役所 811 会議室	「摂食嚥下機能障害とは」 武蔵野市歯科医師会 辰野 隆 氏	75 名
平成 29 年 8 月 23 日(水) 18:30~20:00 武蔵野商工会館ゼロワンホール	「摂食嚥下機能障害とは」 武蔵野市歯科医師会 辰野 隆 氏	75 名
平成 29 年 9 月 22 日(金) 18:30~20:30 武蔵野市役所 811 会議室	合同グループワーク 「摂食嚥下機能障害のある利用者の 在宅生活支援を考える」	78 名
平成 29 年 9 月 26 日(火) 18:30~20:00 武蔵野市役所 811 会議室	「摂食嚥下機能障害とは」(追加実施分) 武蔵野市歯科医師会 辰野 隆 氏	41 名
平成 29 年 10 月 26 日(木) 18:30~20:30 武蔵野市役所 811 会議室	「地域で『食べる』を支えるということ —何を診て、何をすればいいか—」 日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック 菊谷 武 氏	133 名

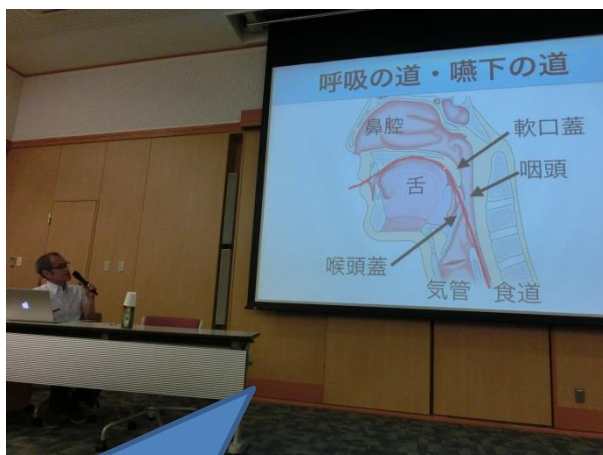
## 【結果報告①】

### 在宅医療・介護連携推進協議会 多職種合同研修会「摂食嚥下機能障害とは」

7月28日（金）、8月23日（水）、9月26日（火）に、多職種合同研修会「摂食嚥下機能障害とは」を開催しました。

公益社団法人東京都武蔵野市歯科医師会の辰野隆先生を講師としてお招きし、摂食嚥下機能障害の基本について学びました。今回の講義は、専門的な内容を分かりやすく説明され、高齢者の食事場面の動画など映像を多く用いた内容で、とても分かりやすい講義でありました。

3日間合計で191名の参加があり、医療・介護関係者など多くの方に参加していただきました。



画像や動画が多くとてもわかりやすい講義でした。



3日間合計で191名の参加がありました。

### 参加者の感想

- 映像が多くとても分かりやすかった。
- 日々の口腔ケアにもっと気を付けたいと思います。
- 観察のポイントや環境づくりが理解できた。
- 食に関する丁寧なアセスメントを試みたい。

## 【結果報告②】

### 在宅医療・介護連携推進協議会 多職種合同研修会 合同グループワーク

9月22日（金）18時30分～20時30分、市役所811会議室にて、合同グループワーク「摂食嚥下機能障害のある利用者の在宅生活支援を考える」を開催しました。

### グループワークのポイント

- 地域における「食」や「摂食嚥下機能障害」をテーマとし、「摂食嚥下機能障害」について正しく理解する医療・介護関係者を増やし、連携を推進していくことを目的とした。
- 事例検討ではなく、多職種連携をメインとしたグループワークにするため、事例内容は専門的なものではなく、情報収集・交換が必要なものとした。
- 今まで参加の少なかった歯科医師会との連携を推進するため、発表は歯科医師の先生に依頼した。

## グループワークの様子

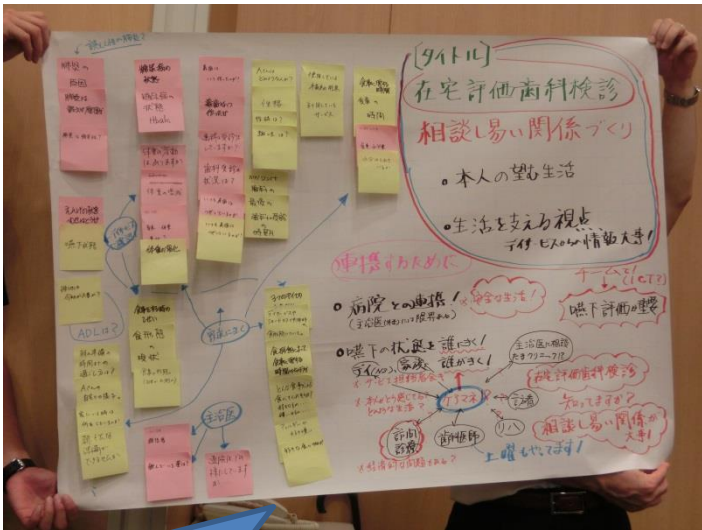


1グループ8名～9名の9グループで実施。各グループに1名歯科医師の先生に入っていました。

### 【参加者の内訳 合計 78名】

医師会	3	訪問看護・訪問リハ	8
歯科医師会	9	通所介護・通所リハ	6
薬剤師会	4	施設事業者（老健・特養・有料など）	5
病院	6	在支・包括	8
居宅介護支援事業者	13	行政（保健所含む）	8
訪問介護	8		

## 発表の様子



KJ法を使ってグループワークをまとめました。

発表は歯科医師の先生にお願いしました。

## 参加者の感想

- 歯科医師との連携は初めてでした。今後も相談しやすい関係が作れたと思います。
- 回数を重ねる必要がある。
- どれだけ密に連携をとれるかが、日々の業務の課題です。これからも研修をやっていただきたい。

### 【結果報告③】

## 在宅医療・介護連携推進協議会 多職種合同研修会「地域で『食べる』を支えるということ—何を診て、何をすればいいか—」

10月26日（木）、18時30分～20時30分、市役所811会議室で多職種合同研修会「地域で『食べる』を支えるということ—何を診て、何をすればいいのか—」を開催しました。日本歯科大学教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長 菊谷 武先生にご講演をいただき、地域で食を支えるための視点や情報共有の大切さについて学びました。



「地域で支える」という視点が多く詰まった講演でした。

133名の医療・介護関係者が受講しました。

### 参加者の感想

- 咀嚼の動画を通して説明をいただきとても分かりやすかった。
- 在宅で患者様を支えるには情報共有がいかに大切か痛感した。
- どこで、どんなものを、どのように食べているか、日常生活の評価が大切だと感じた。
- 肺炎予防のための口腔ケアの重要性を改めて感じた。
- 在宅を支える覚悟ができた。
- 在宅で患者様を支えるには情報共有がいかに大切か痛感した。
- ご家族・他職種と共有した摂食指導を行っていく。

### 武蔵野市摂食嚥下支援事業

★29年度新規事業

高齢者がいつまでも安全に食べられることを支援する『高齢者の摂食嚥下支援』の体制を強化する。

#### 【事業内容】

○歯科医師や歯科衛生士を含む介護職、看護職、栄養士等多職種による、事前・事後カンファレンス、摂食嚥下機能評価を実施し、支援方針の共有化を行い、一人ひとりに合った食形態や介助方法の工夫を行うことによって、いつまでも自分の口から安全に食べられることを支援する。

#### 【実施効果と今後の展開】

- 歯科医師会において摂食嚥下機能評価のスキルやノウハウを有する歯科医師等を育成。今後、デイサービス利用者等在宅で生活する高齢者への支援に拡大。同時に、介護職員等、多職種での情報共有のための連携ツールを整備。
- 在宅医療・介護に携わるケアマネジャーや訪問介護、訪問看護、デイサービス職員、医師等に、摂食嚥下支援の必要性に関する普及啓発や情報提供等を行うことで、在宅での支援体制の整備を進める。在宅医療・介護連携推進協議会で検討。
- 家族等市民への普及啓発。

※平成29年度は市内特別養護老人ホーム（吉祥寺ナーシングホーム）にて実施。平成30年度以降デイサービス等で実施し、連携ツールを整備していく。



講演後に市の新規事業の案内もしました。



## 普及啓発部会

### 市民セミナー「もしあなたが望むなら、家で最期まで暮らせます」 ～安心して暮らし続けるために、知っておきたい制度と心構え～

平成 29 年 12 月 16 日（土）、武蔵野商工会館にて武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会の市民セミナーを開催し、市民や関係者 89 名にご参加いただきました。

#### セミナーのポイント

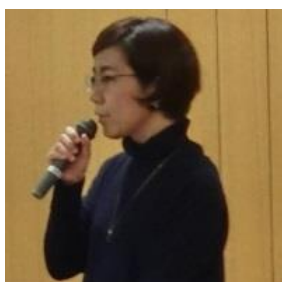
- 28 年度に作成したリーフレット「住み慣れた地域で暮らし続けるために 今から考えてみませんか？」の内容を分かりやすく市民に伝える。
- 市内で実際に働いている関係者が講師となる方が市民に伝わりやすいという意見から、講師は市内で在宅医療・介護に携わっている関係者とした。
- メインテーマとなった「もしあなたが望むなら、家で最期まで暮らせます」は平成 28 年度のケアリンピックで最優秀賞を獲得した事例である。担当した訪問看護師だけでなく、在宅での看取りを経験したご家族にも発表いただいた。

#### 【セミナー内容】

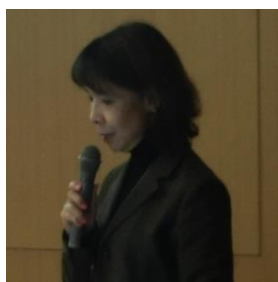
- ◆「武蔵野市在宅医療・介護連携推進事業について」  
田原 順雄 氏（武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会会長/武蔵野市医師会会長）
- ◆「もしあなたが望むなら、家で最期まで暮らせます」  
内藤 愛子 氏（ナースステーションたんぽぽ 訪問看護師）  
利用者ご家族
- ◆「医療が必要になったらどうするの？」  
石井 いほり 氏（武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会 普及啓発部会員  
武蔵野市医師会 在宅医療介護連携支援室）
- ◆「介護が必要になったらどうするの？」  
下田 純一 氏（武蔵野市居宅介護支援事業者連絡協議会 副会長  
居宅介護支援事業所さくらえん 介護支援専門員ケアマネジャー）
- ◆「自分で判断することが難しくなったらどうするの？」  
桑谷 美耶子 氏（武蔵野市福祉公社権利擁護センター）



田原 順雄 氏



内藤 愛子 氏



石井 いほり 氏



下田 純一 氏



桑谷 美耶子 氏



会場定員いっぱいの方に集まってくださいました。



普段詳しく聞けない介護保険のことを分かりやすく説明してくださいました。

### 【発表スライドの一部】



### 望むところで望むように

もしもの時

- ①可能な限り医療処置を受けたい。
- ②積極的な治療は希望しないが苦しさを緩和する医療処置は希望する。
- ③なるべく自然に、積極的な治療も希望せず、緩和のための医療処置も希望しない。

管だらけになるのはいやだわ。痛いのはいやだわ。孫たちと一緒に暮らして欲しいわ。

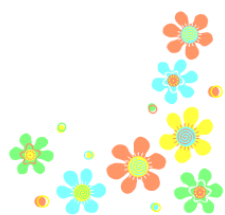
医療処置  
- 食べられなくなったら  
中心静脈栄養  
鼻チューブ  
胃ろう増設  
- 呼吸や心臓が止まったら  
心臓マッサージ  
気管挿管  
気管切開人工呼吸器

仲の良いお友達もできたし、施設で大勢と一緒にいたいわ。

病院で治療を続けたいわ。

### 【介護保険サービスを利用するには】

- 要介護認定の申請
- 認定調査の実施
- 審査判定
- 認定結果の通知
- ケアマネジャーとの契約
- ケアプランの作成
- サービス担当者会議の実施
- サービス事業者との契約
- 利用開始
- 定期的な訪問による確認・評価



ご相談は権利擁護センターへ

TEL: 0422 (23) 1165

9:00~17:00

(休日：土・日・祝、年末年始)



公益財団法人  
武蔵野市福祉公社

権利擁護センター（本部事務所内）

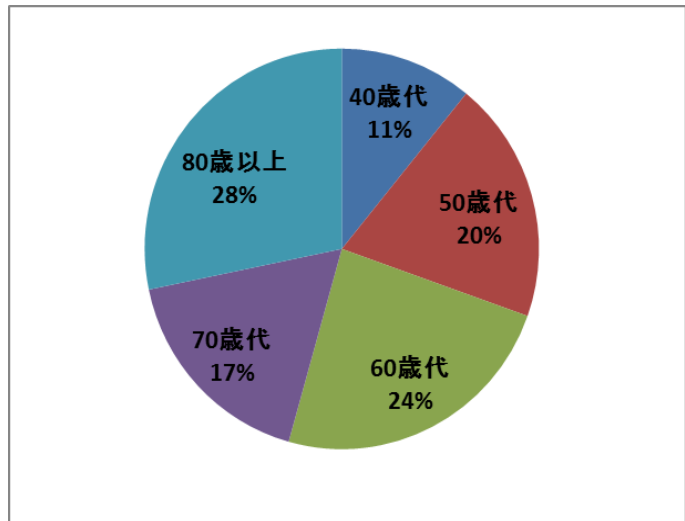
東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1 2階

- 吉祥寺駅より徒歩10分(700M)
- 吉祥寺駅から関東バス  
吉祥寺駅北口より1番または2番乗り場から乗車、「八幡前」下車

## アンケート結果 アンケート回収数:46 (回収率 51.6%)

### 1 参加者の年齢

年齢	人数	%
20歳未満	0	0%
20歳代	0	0%
30歳代	0	0%
40歳代	5	11%
50歳代	9	20%
60歳代	11	24%
70歳代	8	17%
80歳以上	13	28%
無回答	0	0%
合計	46	100%



### 2 本日のお話について

#### 2-1 本日のセミナー内容について理解できましたか？

	人数	%
理解できた	45	98%
理解できなかった	1	2%
無回答	0	0%
合計	46	100%

#### 2-2 本日のセミナー内容は役に立ちましたか？

	人数	%
役に立った	41	89%
ふつう	5	11%
役に立たなかった	0	0%
無回答	0	0%
合計	46	100%

### 3 セミナー内容について聞きたいこと、その他ご意見（自由記載）

- ・ 自宅で最期まで暮らせることができるということが分かりました。これからも色々情報を流してほしいと思います。
- ・ 在宅で一か月ではなく、もっと長期的な治療が必要であった場合も知りたかった。
- ・ 事例がどうしたらこんなにスムーズにいったのか知りたい。我が家では病院、施設との連携がうまくいかないで困っている。自宅で一人看取りたいと思っている。
- ・ 今年の3月に母が要介護認定の調査員訪問を受けた。申請前に今日のセミナーの話を聞いてみたかった。母が今年5月にMCIと診断された。家族信託について知りたかった。
- ・ 内容を詰め込みすぎ。話す人が多い。それぞれの話が長い。
- ・ 非常に参考になりました。このようなセミナーの開催は情報発信に有効だと思います。
- ・ 他の地域でもセミナーを開催し高齢者・地域の皆さんに周知をしてもらえるといいと思います。

### 協議会からのメッセージ

多くの市民の方にお集まりいただき、参加者から「参考になった」「今後も開催してほしい」という意見を多くいただきました。そのため、今後もこのような普及啓発事業を継続し、市民の方が自分の将来を自分で選択できるような地域の醸成を図っていきたくと考えています。

## 結核予防・対策研修会「支援者が知っておきたい結核対策の基本」を開催しました。

7月19日（水）、7月25日（火）、18時30分～20時、市役所会議室にて、結核予防とその対策をテーマとした「支援者が知っておきたい結核対策の基本」を開催しました。

東京都多摩府中保健所保健対策課感染症担当の医師、保健師を講師としてお招きし、高齢・介護、障害福祉サービスの従事者等、77名の参加がありました。

結核の知識・基本の講義後、事例を通して、結核が発生した時の対応を学びました。事例はサービス利用者が結核を発症した場合と支援者（ヘルパー）が結核に罹った場合の2事例が提供され、具体的な対応を学ぶことができました。また結核が以外に身近な病気であること、病気への偏見が強いことなどを再確認し、「正しく理解すること」の重要性を学びました。



事例を多く用いた具体的な説明をしていただきました。

### 参加者の感想

- 結核が自分の生活の身近にある病気だということが分かった。
- 発病者に接したとしても、落ち着いて対応ができるのではないかと感じました。
- 武蔵野市で結核があるとは思っていませんでしたので勉強になりました。



平成28年度結核の新登録患者数  
武蔵野市 21名  
都内全体では約2,600人の新たな結核患者が発生しています。

【事務局】 武蔵野市健康福祉部地域支援課（在宅医療・介護連携担当） 勝又・齋藤・大野  
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 電話番号 0422-60-1941（直通）FAX 0422-51-9218  
メールアドレス SEC-CHIIKI@city.musashino.lg.jp